

原強プ第17号
2021年3月17日

島根県知事 丸山達也様

中国電力株式会社
代表取締役副社長執行役員
原子力強化プロジェクト長
重藤隆文

島根原子力発電所における保守管理の不備等に関する
再発防止対策の進捗状況について（報告）

2021年3月5日に開催された、第25回原子力安全文化有識者会議の議事概要について、平成22年3月30日付け消防第2738号および平成22年10月19日付け消防第1054号の申し入れに基づき、添付資料のとおりご報告いたします。

添付資料

第25回原子力安全文化有識者会議 議事概要

以上

第25回原子力安全文化有識者会議 議事概要

- 開催日時 2021年3月5日(金) 13時30分～16時30分
- 開催場所 松江市総合文化センター プラバホール 大会議室
- 出席者 [社外委員] 梅林委員, 亀城委員, 児玉委員, 高尾委員, 野津委員,
豊田委員(座長, Zoomオンライン会議による出席),
山浦委員(Zoomオンライン会議による出席)
[社内委員] 重藤原子力強化プロジェクト長(幹事), 芦谷副社長, 北野取締役

○ 議事内容

1. 開会あいさつ(重藤幹事)

- ・前回(2020年9月24日開催)の有識者会議で報告したサイトバンカ事案については, 委員の皆さまをはじめとして地元の皆さま, そして関係者の多くの皆さまに多大なご心配をおかけしたことを, 改めてお詫びを申し上げます。
- ・サイトバンカ事案については, 昨年8月31日に調査報告を公表のうえ, 個別のアクションプランを策定して具体的な行動計画を定め, 再発防止対策に取り組んできた。本日はその取り組みの状況を中心にご説明し, ご意見やご提言を賜りたい。
- ・今後, 同様の事案を発生させないように, 協力会社と一体となって再発防止対策に取り組むとともに, この有識者会議でのご意見やご提言を今後の取り組みに反映し, 更なる原子力安全文化の醸成に努めてまいりたいと考えているので, 本日も忌憚のないご意見, ご議論をお願いしたい。

2. 議事

(1) サイトバンカ建物の巡視業務の未実施に係る再発防止対策の実施状況について

資料にもとづき, 高田電源事業本部部長から説明し, 質疑を行った。

主な意見は以下のとおり。

- ・ほとんどのアクションプランが「完了」となっていることに違和感を覚える。策定した対策を実施したから終わりではないと考える。協力会社を含む社員が, ただ職務をこなすだけではなく, 人の心の部分を重視し, 生き生きとやりがいを持って働いていくことができるよう, 留意してもらいたい。
- ・今回の再発防止策の中に「運転員に求める期待事項」というものがあるが, こうした表現を取ることで, 現場で働く社員には, 上からの要求に応えるだけの受動的な対応に陥り, 自発的に行動する意識が育たないおそれがあるのではないかと。根本的な問題として社員一人ひとりが何よりも安全を守ることを第一に考えて行動するべきであり, 再発防止策には根本的な問題に対する取り組みという位置づけが不可欠である。
- ・動いていないプラントで働いていれば社員の士気(モラル)も下がると思う。社員が意気に感じて働けるよう, 士気を涵養しなければならない。

- ・協力会社に中国電力と同等のレベルの業務を行ってもらうことはなかなか難しいことと考える。協力会社社員が自発的に考えて仕事を行えるよう、中国電力社員と同じ意識を持って行動できるよう、取組みを進めてもらいたい。
- ・島根原発では約3,000名が働いており、ヘルメットの色が違っていても安全に対しては同じように取り組んで行かなければならない。今回の再発防止対策が、協力会社も含めた安全文化醸成活動にどう結びついたのか、安全に係る行動がどのくらいよくなったのかを見せてほしい。
- ・安全の問題は単純な上意下達では解決しない。安全に関しては働いているすべての人が社長のよ様な判断ができる必要がある。そのためには、一人ひとりに動機づけを行うことは勿論、キャリアを積ませて現場力や問題解決力の向上を図ることが、安全の問題を解決する方法の一つではないか。
- ・不祥事を起こせば、信頼は一日で崩れてしまう。地域社会の原子力を見る目が厳しくなっている中、こういった事案が生じたことは本当に残念である。中国電力には自己の責任をしっかりと果たしてもらいたい。

(2) 「点検不備問題に係る再発防止対策の実施状況・評価ほかについて」「原子力安全文化醸成に向けた取り組みについて」

資料にもとづき、高田電源事業本部部長および吉安原子力強化プロジェクト部長から説明し、質疑を行った。

主な意見は以下のとおり。

(点検不備問題に係る再発防止対策の実施状況・評価ほかについて)

- ・不適合と判定された場合、発生した案件は放っておくことなく、適宜改善していく必要がある。何も対応せずに不適合案件が溜まったままになってしまうと、不適合に該当する事案であっても問題ないのではないかと社員が考えてしまうおそれがある。
- ・コンプライアンスや安全文化醸成の問題については、少々コストをかけても、スピーディーに取り組んでいくことが必要である。
- ・安全文化醸成のための教育・セミナー等を実施する際には、「また同じようなことをするのか」と受講者に思わせないようやり方を工夫すべきである。他社の事例なども活かして、安全やコンプライアンス上の問題点を社員に気づかせるような教育・セミナーも必要である。
- ・国の求める規制要求の水準は年々高まっているように思われるが、それに対して中国電力はどのように対応しているのか。

- ・島根原子力発電所が発行する広報紙『あなたとともに』は、コロナ禍にあっても地域と発電所をつなぐ重要なツールだと思うので、今後も続けていってほしい。
- ・新型コロナウイルス感染症が収束すれば、中国電力としてどのように地域との接触を高める取組みを進めていくのか。

(原子力安全文化醸成に向けた取り組みについて)

- ・原子力安全文化アンケートについて、記述式の回答を求める設問を何項目か入れてみてはどうか。そうすれば、回答者の「生の意見」が出てくると思われる。
- ・アンケート項目のうち「体系だったルールと体制」の評価値が低い一方、「ルール遵守を強化する仕組みの充実」の評価が高いことの背景として、現場社員が働きにくいルールがあるといった問題点が隠れているのではないか。
- ・「教育訓練プログラム等の充実」についても評価値は高くはないことから、教育訓練プログラムに何か問題点があるのではないか。今後、何らかの対策を取ることを考えているのか。
- ・前回の有識者会議でも、ルールやマニュアル等が増えすぎて、現場の負担感が増しているのではないかという意見が出たが、局所的な対応に拘ってルール等を複雑化するのではなく、広く全体を見て検討を進めていってもらいたい。
- ・原子力安全文化アンケートの結果について、評価ポイントの上昇はあるが、グラフの形、評価値の傾向は10年前と大きく変わっていない。評価ポイントの低い項目について、改善に向けた取組みを行ってほしい。
- ・日頃の業務に対する思いや社員の意識について共有するために、協力会社の間で意見交換する場があってもよいのではないか。

(3) 情報提供：島根原子力発電所2号機 新規制基準適合性審査の状況について

資料にもとづき、三村電源事業本部部長から情報提供を行い、委員から「審査もいよいよ大詰めに差し掛かっているが、今まで以上に緊張感を持って業務に取り組んでほしい」との意見があった。

3. 閉会あいさつ（重藤幹事）

- ・本日は長時間にわたりご議論いただき、また貴重なご意見やご提言を賜り、感謝申し上げます。
- ・この有識者会議でいただいたご意見やご提言を含め、あらゆる機会を通じて問題に「気づく力」を向上させていくということが大事だと思っている。
- ・本日は、委員から「今まで積み上げてきた信頼が、不祥事によって一日にして崩れてしまう」というご意見もいただいた。当社はこの10年ほどで、3回も失敗を犯してしまっている。失った

信頼を取り戻すということは、本当に容易ではないことを痛感しているが、ここが踏ん張りどころという気持ちで、グループ・協力会社としっかりコミュニケーションを取って、一体となって取組みを進めてまいりたい。

- ・こうした取組みの状況については、今後も適宜、この有識者会議にご報告するので、引き続き変わらぬご支援をお願い申し上げます。

以 上